

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（11月28日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

今回は、12月に入る新しい本の中から5冊を紹介いたします。

はじめに、一般書を2冊ご紹介します。

1冊目にご紹介するのは、先月、ノーベル賞物理学賞を受賞した赤崎^{あかさきいさむ} 勇さんの著書『青い光に魅せられて～青色 LED 開発物語～』です。赤崎さんの生い立ちから現在までの歩みについてまとめられています。

大学進学まで過ごした鹿児島でのことや、大学卒業後、企業と大学を渡り歩きながら研究を続けていったことなどが詳しく記されています。赤崎さんが青色 LED の材料として窒化ガリウムの可能性に着目し、研究に取り組んだのは40歳のときでした。重要な研究成果が出たのは60歳になる前といいますから、遅咲きの研究者といえます。自分の好きなことにとことん打ち込み、あきらめなければ道は開けることを私たちに教えてくれます。

また、赤崎さんの外国でのハプニングが本書のコラムとして紹介されています。たとえば、初めてのアメリカ出張の際、機内でお酒に酔って、到着した空港で一晩眠りこんでしまった、といったことがあったそうです。赤崎さんの親しみやすい人柄^{ひとがら}の一面^{かいま}を垣間見ることができます。

2冊目にご紹介する本は、北村^{かおる} 薫さんの『八月の六日間』という小説です。

主人公は出版社で編集の仕事に携わっている女性です。仕事が休みになると、春夏秋冬それぞれの季節を楽しむかのように各地の山にひとりで出かけていきます。ストーリーを通して、山に登る前日の準備から山を下りて帰り着くまでの何日間かを主人公と一緒に体験します。単なる登山の話ではなく、合間に主人公の過去や人間関係がちらっちらつと顔をのぞかせます。一見淡々とした文章ですが、なぜかほっと安らぎを感じるような読後感があります。山に登った達成感も主人公と共に味わっているからでしょうか。なので、この本を読むとひとりで山に登りたくなるかもしれません。

次に、児童書を2冊ご紹介します。

1冊目にご紹介するのは、高岡昌江^{たかおかまさえ}さんの『動物のおじいさん、動物のおばあさん』という本です。日本の動物園にいる、サイ、ゾウ、ゴリラなど7頭の動物を紹介している本なのですが、共通しているのはみんなお年寄りだということです。これらの動物たちはこ

れまでどんな出来事を乗り越えてきたのか、そして今どんな毎日を生きているのか、想像しながら読みすすめてほしいと思います。動物たちにもそれぞれの人生があるんだなあと深く感じるができるでしょう。動物と飼育員との信頼関係も描かれていて心温まる内容となっています。

2冊目にご紹介するのは、『ぬいぐるみおとまりかい』という絵本です。

「ぬいぐるみおとまりかい」とは、「ぬいぐるみの図書館お泊まり会」のことをいいます。子どもたちがぬいぐるみを図書館に持ちよって、夜の図書館にぬいぐるみだけお泊まりさせる、というイベントで、全国各地の図書館で実施されているようです。子どもたちのお気に入りのぬいぐるみたちは、図書館に預けられたあと、夜の図書館でいったい何をしているのでしょうか。この絵本を開いて、こっそりその様子をのぞいてみませんか。

最後に、郷土に関する本のご紹介です。

『奄美大島に於ける「家人」の研究』という本です。1963年（昭和38年）に名瀬市史資料第二輯^{しゅう}に収められ、今回復刻版として刊行されました。加計呂麻島の諸鈍出身^{しよどん}である著者の金久好^{かねく よしみ}さんが、東京大学在学中に書いた論文です。「家人」とは、明治時代初めまであった、奄美大島の人身売買を伴う奴隷的色彩の濃い奉公人制度で、下人下女と呼ばれる人たちでした。家人は、旧藩時代の黒糖生産における主要労働力であったと言われています。奄美の歴史を知るうえで貴重な1冊ですので、この機会にぜひ手にとってみてはいかがでしょうか。

さて、奄美図書館はただいま特別整理のため休館しております。12月6日（土）から開館いたします。本日はご紹介した本をはじめ、たくさんの新しい本を準備してみなさんをお待ちしております。また、新たに「子育て・教育コーナー」「医療・福祉コーナー」も設置しましたので、どうぞご覧ください。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。